

観劇文化への導入の一つになる空間

A space that is one of the introductions to theater culture

サレジオ工業高等専門学校
永井 みお
指導教員 比留間 真

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 空間・工業意匠研究室

観劇、観劇文化、イマーシブ、オペラ座の怪人

1. 研究動機

中学生の時に見た映画『ハリーポッター』シリーズのメイキングの映像に感銘を受けた。そこから、劇団四季やディズニーの実写映画などの舞台セットや衣装からなる世界観作り注目するようになった。また、観劇などに関する研究をしたいと考えた。

2. 現状

2018年までの演劇・ミュージカル業界の市場規模・観客動員数共に年々増加傾向にあった。小劇場による公演数は減少したが、大規模による公演数が増えたこと、劇団四季や2.5次元作品の好評が理由として挙げられる。特に2.5次元作品は、公演回数・市場規模共に2018年までの10年間で約6倍（回数は約3,700回。規模は約226億円）に増加した



しかし、独自に4月24日から5月4日にGoogleフォームを利用した「観劇」に関するアンケートを行ったところ、以下のような結果が得られた。10代後半から30代前半の28人から回答を得られた。しかし、約半数の人が観劇に興味が無いといった回答が見られた。



このことに関して調査を進めると左のようなデータがあった。これは、2016年の観劇を行った人の性別別の割合だ。これを見ると男性の割合が女性に比べると少ないことが見受け

られる。また、10代や20代の鑑賞率が低いという結果もある。このことから、若年層（特に男性）の観劇に関する興味は低いように見える。

*2020年現在コロナウイルスの影響で多くの公演が中止・延期、客席を減らして行われている。そのため、市場規模の縮小が予想される。

3. テーマ

2.5次元作品の人気で観劇の文化が広がっているものの、興味のない人もいる。また、コロナ禍の影響で公演が十分に出来ず、観劇文化に少なからず影響が出ることが予想される。そこで観劇により興味を持つもらえるにはどうすれば良いかを考えていく。また、映像配信ではない別の切り口でのアプローチを試みる。

今回は、観劇のなかで得られる「物語への没入体験」という魅力の一つを伝える、『観劇文化への導入の一つになる空間』を目指していく。ターゲットは、一般的な大学生くらいの年齢で、男性にも刺さる空間を目指す。

4. 提案

物語への没入には様々な条件の元起こる。例えば、移入・共感、同一化である。またそれらは、その物語について印象深い体験になる。

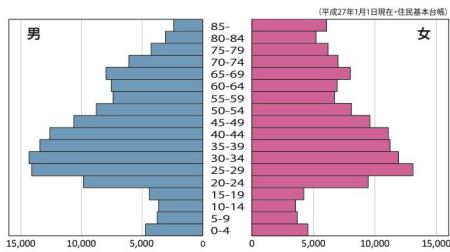
そこで、注目したい舞台がある。それは、『イマーシブ型』演劇だ。イマーシブとは「没入型の～」という意味で、観客が登場人物の一つとして参加する。この公演では、基本的に観客が自由に動き回るため客席が必要無い。また、ホテルなどの商業施設を利用した公演もあり、商業施設とも相性が良い。この利点を利用して、本提案ではイマーシブ型の空間の提案を行っていく。

また、イマーシブのものを調べていく中でコンセプトカフェに着目した。コンセプトカフェには、「現実世界とは違う世界観に入り込み楽しむ」というイマーシブな側面持っている物も存在していると

感じた。コンセプトカフェの代表格でもあるメイドカフェの利用客の多くは男性だ。また、20代の客は全体の30%以上だ。（2016年）さらに、近年は様々なタイプのコンセプトカフェが誕生しているが、物語がコンセプトのカフェも存在する。これらを踏まえて、本提案はコンセプトカフェを参考に思案していく。

立地に関しては、池袋を検討している。理由は以下の通りだ。

- 1、新宿に次ぐ2番目の乗降者数（2019年）
- 2、人口の年齢層が低い



3、サブカルの街としての歴史がある。

（戦後の闇市で様々な文化が入り混じり、自由文化都市として芽吹いた。高度経済成長になると、安価な木造アパートが増え、漫画文化や若者の文化を支えた。）

4、アニメイト（アニメグッズ専門店）本店、ナンジャタウン（屋内型のテーマパーク）、乙女ロード（サブカルショップなどが集中している地域）がある。

5、サンシャインシティなどの大型商業施設がある。

若者の街であり、コンセプトカフェといったサブカルチャーの受け皿になっている街は、本提案に則した街であると言える。

*「サブカルは女性は池袋。男性は秋葉原」というイメージがあると思うが、池袋にも男性向けのサブカルチャーのお店・施設がある。また、男女問わず楽しめるコンセプトカフェも多く出店している。

池袋のサブカルチャーなお店や施設の特徴として、現実とはかけ離れた世界を楽しむことが魅力となっている場所も少なくない。そこで今回は、『オペラ座の怪人』のお話の世界に入ることができる空間を提案したいと考えている。「オペラ座の怪人」は舞台がパリであること、ファンタムという非現実的な存在という現実とかけ離れている部分が本提案の趣旨に則している。また、何より劇団四季などでも上演されるなど世界的に有名な作品なため導入としては良いのではないかと思う。

本提案では、雑貨とキャンディーのお店で展開していく。理由としては、カフェといった飲食店は男子大学生にはハードルが高いと考えた。そこで、気軽に立ち寄ることができる雑貨やお菓子を取り扱う店の方が気軽に立ち寄りやすいと考えた。また、お菓子もフランス菓子を取り扱うと単価が高くなつて

しまう。そのため、キャンディーという駄菓子のように安価で購入できるものを提案する。この駄菓子は、近年の駄菓子の再燃焼の流れも汲んだものだ。

ラウルの気持ちになれるように、ステージから楽屋、そして地下に向かうよう3つのフロアに分ける。そして、楽屋にキャンディー、地下に雑貨を販売するブースを設ける。

5. 今後の展望

- ・具体的な内装提案（モデルも含む）
- （・コスチューム提案）

6. 参考・引用文献

- ・「2019 ライブエンタテイメント白書」2019年9月発行
- ・「オペラ座の怪人」1987年 ガストン・ルルー著 三輪秀彦 訳
- ・<https://kyoto-sakurahime.com/> イマージブシアター『サクラヒメ』公式HP
- ・<https://www.hotelshekyoto.com/midnightmotel> 泊まれる演劇 MIDNIGHT MOTEL公式HP
- ・物語世界への没入体験～読解過程における位置づけとその機能～ 2013年 小山内秀和、楠見孝
 - ・<https://xbusiness.jp/post/169> Xビジネス
 - ・<http://www.alice-restaurant.com/meikyu/> 迷宮の国アリス
 - ・<https://www.jreast.co.jp/passenger/index.html> JR東日本 各駅の乗車人数
- ・https://www.city.toshima.lg.jp/artculture/toha/documents/2hbunseki_kaisetu.pdf 背景と現状分析 豊島区
- ・<https://www.ntj.jac.go.jp/assets/files/kikin/arts council/engekityousa20180330.pdf> 日本芸術文化振興協会 鑑賞行動に関するアンケート調査（演劇） 平成28年度助成事業より
(2020.10.17 閲覧)